



県産野菜の農薬モニタリング

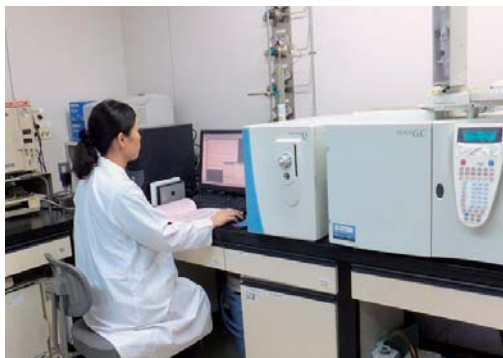


写真1 GC-MS

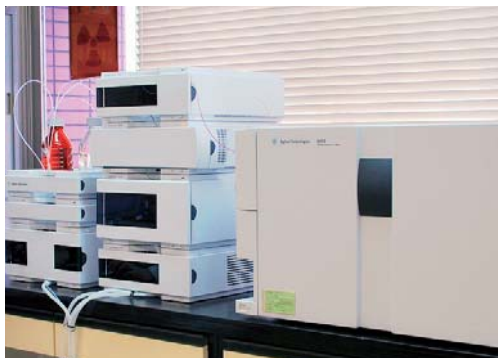


写真2 LC-MS/MS



表 県産野菜の農薬モニタリング調査結果

農薬成分名	調査作物名（検体数）											
	ニラ（56）				ネギ（30）				葉ニンニク（6）			
	登録	基準値	検出回数	最高濃度	登録	基準値	検出回数	最高濃度	登録	基準値	検出回数	最高濃度
アセタミプリド	○	5	7	1.03	○	5	0	—	×	0.2	0	—
アゾキシストロビン	○	5	17	1.95	○	10	6	0.17	×	50	0	—
クレソキシムメチル	○	30	10	2.63	○	2	0	—	○	30	0	—
クロチアニジン	○	15	26	0.74	○	1	9	0.06	×	2	0	—
シペルメトリン	○	6	2	0.44	○	5	0	—	○	6	1	0.19
チアメトキサム	○	2	3	0.01	○	2	9	0.30	×	—	0	—
トリフルミゾール	○	5	2	0.06	○	1	0	—	×	5	0	—
フルジオキシニル	○	10	2	0.04	○	7	0	—	×	10	0	—
ジノテフラン	○	10	0	—	○	15	5	0.22	×	0.7	0	—
トルフェンピラド	○	10	0	—	○	5	5	0.28	×	—	0	—

○；登録有り、×；登録無し、—；検出無し、基準値・最高濃度（単位：ppm）

本県では農薬の適正使用を確認し農産物の安全性を確保するため、平成10年から毎年、県産野菜の残留農薬モニタリング調査を継続しています。平成15年には分析機器GC-MS（写真1）が、平成20年にはLC-MS/MS（写真2）が導入され、トータルで100成分以上を確認できるようになりました。

平成21～23年度の3年間にニラ56検体、ネギ30検体、葉ニンニク6検体、計92検体、延べ9,842成分について調査しましたので、結果を報告します（表）。

今回の調査では、作物登録外の使用や残留基準値超過などの事例はありませんでした。検出された殺菌剤では、アミスター20

フロアブルの成分であるアゾキシストロビンと、ストロビーフロアブルの成分であるクレソキシムメチル、殺虫剤では、ダントツ水溶剤の成分であるクロチアニジン、アクトラ顆粒水溶剤の成分であるチアメトキサムの検出回数が多く、4成分を併せると検出例の約8割を占めました（表）。3作物で検出された各成分の最高濃度は14例中11例が基準値の1/10以下で、これ以外の3例も基準値の1/2以下でした。これにより、本県においては、農薬が適正に使用され、安全性が確保された農産物が生産されていることを確認しました。

（農薬管理担当 青木こずえ 088-863-4915）